

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090300151		
法人名	医療法人 岩下会		
事業所名	岩下病院グループホームあじさい		
所在地	群馬県桐生市本町4丁目320番地		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年8月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院に併設されているグループホームであるので、緊急時の対応や日常的にも相談等が可能であることで、入居者様やご家族様にも安心感を持って頂いています。</li> <li>・食事は三食手作りをモットーにしています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームに入居しても、利用者一人ひとりが役割や趣味等の楽しみごとの継続ができるように環境を整え、その人の経験や知恵が日常的に発揮できるような場面をつくり支援している。管理者・職員は評価を活かしながら、できるところから速やかに改善に取り組み、ケアサービスの向上に努めている。食事が楽しみなものになるよう、利用者の好き嫌いや希望を取り入れ献立を作成している。母体の病院との連携で、利用者の健康維持に努めている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとして意義をふまえた理念をつくり、介護日誌の表紙に大きく掲げてあり、毎日、目に触れるようになっていて、全員で共有しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。管理者と職員は会議等でケアの方向性を確認しながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や日光浴をしている時など病院の外来者などと気軽に挨拶・会話をし、色々な情報を得、お花見やお祭りに出掛けています。	病院に併設されており、入口のベンチで日光浴の際に病院の外来者等と挨拶や話をしている。地元での行事やお花見、お祭り等に参加している。散歩時に地域住民と話をしたり、馴染みの店に買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型共同生活介護員として対応している。又、北地域包括支援センター主催の家族交流会を開催し、地域の方々との交流を図りました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、活発に意見を出して頂いています。特に防災訓練は戸外へ誘導実施してみて、かかった時間など把握してみました。	会議は定期的に行われている。ホームから状況報告等を行い、食中毒の予防、感染防止対策、防災対策等について話し合いを行い、防災訓練を実施している。2月開催時に、市の担当者は出席していない。	市の担当者は4月以降は出席しており、これからも毎回出席してもらえよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の時や、市役所へ行く機会がある時は担当者に声を掛けたり、解らない時は電話にて聞いています。	状況報告・申請代行等で市の窓口へ出向いた際に、市の担当者と情報交換を行ったり、電話で相談等を行っている。地域包括支援センターと連携して「学びましょう・認知症のこと」講座を事業所で開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は母体病院の救急出入口と通路が共有の為かけてありますが、身体拘束の具体的な行為は掲示して職員にも理解、拘束をしないケアを意識しています。	身体拘束の具体的な行為を事務室に掲示して職員に注意を促している。利用者の抑圧感を招かないよう、声の調子に注意している。病院の救急出入口とホームの通路が共用している為、救急車到着の際に利用者の混乱が生じる場面があり、玄関は施錠している。	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図ってほしい。構造上の問題もあるが、職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態を捉えることで、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同が目くばりをして利用者様が和やかに、そして、言葉による精神的虐待には特に気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、解かりづらい問題であり、そのような学ぶ機会があれば参加して学びたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項など読み上げ説明しており、疑問点があればすぐその場で理解して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方は面会時などに、入居者様はその場の表情などから聞き取りをしたりしています。	利用者との会話や表情等から要望等を汲み取るようにしている。運営推進会議や家族等の訪問時には、意見や要望を聞くように努めている。出された意見や要望等は職員間で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、スタッフ全員参加の招集をかけ、会議を行い意見など聞くよう心がけています。	2ヶ月に1回の全体会議やミーティング等で職員の意見等を聞く機会を設けており、意見や提案等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々現場に来て入居者様と話をしたり、職員との食事会を設け、親睦を図り意見交換をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や福祉協議会、東毛ブロックの研修など案内を回覧し出来る限り受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設間や訪問調査に入ったケアマネさんらに情報を頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後とご本人様の思いを知る事が出来るような関係作りを心がけています。又、ご家族様等からのお話をまめに聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が思う事をお聞きできる機会を少しずつでも多く重ね、話し易いようにゆっくり丁寧に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様一人一人に合ったサービスを提供出来る様に色々なサービスの種類や内容を知る、考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がお世話をするのではなく、人生の先輩として知恵をお借りする気持ちで信頼関係を持てるように接しています。楽しい事や不安な事を理解し共有しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族様の思いを聞き、又、気兼ねなく相談して頂けるようにしています。ご家族様の思いと同じように支援して行きたいと思えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩などに行った時には、その方が歩き慣れている道や場所になるべく行くようにし、思い出や記憶、関係が途切れないよう支援に努めています。	家族や兄弟、友人等が遊びに来てくれたり、近所の商店街に出かけ馴染みの店で買い物をしている。散歩やドライブで懐かしい場所へ出かけて行くようにしている。手紙や電話での取り次ぎを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で入居者様同士の関係性や相性を把握し、共有することで入居者様同士が円滑に関係を作れるように働きかけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもその関係の方から連絡が来たり、来所された場合は状況に応じて対応できるように職員間で内容を把握しておきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の会話や行動、ご家族からのお話から入居者様の思いや考えを導き出し把握するよう努めています。	日々の関わりの中で、本人の言葉や表情・行動等から、思いや意向を汲み取るように努めている。家族等からも情報を得て、職員間で共有しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様・これまでのサービス関係者様からは生活歴などの情報を取り、それを継続していくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る事、出来ない事を知り、その方らしく自然に生活出来るように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向を聞いたり、ご家族様と話し合いの中でそれぞれの考えを盛り込みアセスメントをし、月末にモニタリングを行っています。	本人・家族等から意向等を聞き、カンファレンス等で検討し、意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的、精神的状況及び日々の様子やご本人様の言葉を介護記録に残し、介護計画の見直しや評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が急に体調不良になった時など家族に代わり受診したり、急な外出など個々に満足できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員や地域包括支援センターの職員が参加するようになり情報交換、協力関係を築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の時には、ご家族様に連絡をとり、かかりつけの病院へ行って頂く又、不可能な時には職員が代行する事もあり支援しています。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診等が不可能な場合は、職員が代行し結果を報告している。協力医が2週に1回訪問診療を行っている。希望者は月2回訪問歯科を受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来てくださり1日の生活情報を聞き取って頂き、見守りを行い適切に対応を行い、受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との協働支援は出来ています。ご家族の方に電話で様子を聞いたりして日々情報交換を行い、良い関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急時の対応について」や「看取り同意書」を配布、提出して頂いて話し合いにより検討しています。	「緊急時の対応について」「看取り同意書」を作成している。入居して1年以内に本人・家族等に説明し、同意を得ている。状態等の変化に応じて、本人・家族等の意向を確認し、主治医及び関係者全員で方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院との連絡がいつも備えてあります。「救急救命」の研修など受講し、体験するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、安全に避難できる様、全職員が心がけるとともに、地域との協力体制を行って実施しました。	年3回、消防署の協力を得て、昼想定で総合防災訓練・避難誘導訓練を実施している。地域の人や消防団員に協力の依頼をしている。災害の発生時に備えて、水や食料等を準備している。	利用者や職員等が確実に避難方法を身に付けられるように、夜間想定訓練や実践訓練の増加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った心ある話掛けをし、対応を行う。難聴ぎみの方に対しては誘導して声掛けにも(大声を出さないよう)気配りをしています。	個々の尊厳を大切に言葉かけや対応を行うよう努めている。排泄や入浴介助の際には十分に注意をしている。個人情報取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出などを行い、買い物などをし楽しんで頂けるよう働きかけを行っています。一緒におやつ作りなども行い、楽しく過ごして頂けるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で必ずレクリエーションの時間を作り、声掛けし色々な事を行う。(カラオケ・カルタ・トランプ・百人一首・散歩・ゆっくりとした入浴など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中はその方に合わせて、着やすい物を着用する。又、おしゃれな方などには少し明るい物を着用されて頂くよう促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ず声掛けをし会話をしながら食事を行う。配膳も一緒に行い、食器拭きなども手伝って頂くよう心掛けをしています。プランターで収穫した野菜を調理しています。	利用者は野菜の下ごしらえ・配膳・食器拭き等を職員と一緒にやっている。利用者の好き嫌いや希望を取り入れ、献立を作成している。職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう支援している。プランターで野菜を育て収穫表に記録し、調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体に合わせて食事作りを職員が行っています。塩分は少し控えめにして食事量、水分量の確保など注意しながら入居者様に応じた食事作りを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行い、一対一で対応しています。夕食後は入れ歯をはずし、ポリドントを実施。月2回歯科医の指導があり口腔体操も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量にもより、トイレ誘導し、失敗のないよう習慣を続ける事だと思います。失禁してしまった場合にはすぐに入浴し不快感が残らないようにしています。	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁時の対応についても、羞恥心や不安感が残らないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事を摂り、外への散歩、フロアでの歩行、肩・足・首の運動をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めているが、拒否されている時は少し間を置き、自身で入浴の気持ちが起きるまで待ちます。ゆったり入る方は体調を見ながら対応しています。	毎日入浴できる体制になっている。一人ひとりに声を掛け、本人の希望に合わせて午前と午後に入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、本人の気持ちを大切に臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様により時間で眠れない方が何人かいます。フロアでお話を聞き、納得安心され休むようされています。人により昼寝を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より「お薬について」を頂き、職員は薬の理解をし、又、その方の服薬形態などに合わせ服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トランプ、百人一首、カラオケ、折り紙、上毛カルタ、輪投げゲーム、食器拭き、洗濯干し、お茶入れ、食事の盛り付け、配膳などされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により買い物に行かれません。又、ご家族様が連れて牡丹の花を見に行かれたり、グループホームあじさいでも、バラ園・梅の花見・桜の花見・ハナミズキ・紅葉などその月々に合わせたドライブをしたりしています。	天気の良い日には、玄関入口での日光浴や周辺への散歩、行きつけの商店へ買い物に出かけている。ドライブ・季節毎の花見・紅葉狩り等に出かけたり、家族等と一緒に外出する等、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解を頂きつつ、ご本人様の安心や満足に向けてご本人様が所持管理しています。(少額)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご友人様への電話は、申し出により自由に使用されたり取り次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアーには四季を通し入居者様と一緒に書き初めや壁飾りを作り飾っています。又、季節の切り花、植木などを置いて一緒に手入れを楽しんでいます。	玄関入口にはプリンターを置き、夏野菜を栽培している。室内は採光が十分で、清潔が保持されている。ホールにはテレビ・大きなソファ・観葉植物等が設置され、季節の花を飾っている。壁には利用者の作品や季節毎の壁飾りを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい入居者様は同じテーブルに座り、お話されながらテレビを見られるようにしています。又、話好きな人には、聞き上手な人と安心して気持ちよく過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家で使っていた物を持ち込み、同じような生活が出来るよう不安なく過ごせるよう、馴染みの物を使って頂けるように勧めています。	各居室には、テレビ・籐の椅子・衣装ケース・時計・ラジカセ・花鉢・化粧道具・利用者の作品等、馴染みのあるものや思い出の品々が持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のカーテンの開閉やフロアーの椅子にはご自分の座布団を掛けたりしてご自分の椅子と認識して頂いています。		